

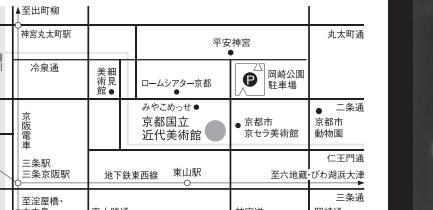


photo by Kunihiro Shikata

同時開催の展覧会 *2月29日㈯ー5月25日㈰臨時休館

チェコ・デザイン100年の旅
2020年3月6日㈮ー7月5日㈰

日本・ポーランド国交樹立100周年記念
ポーランドの映画ポスター
2020年3月17日㈫ー7月12日㈰



交通案内

JRバスをご利用の方

- JR・近鉄京都駅前(A1)のりばからバス5番 銀閣寺・岩倉行、(D1のりば)から市バス100番(急行) 清水寺・銀閣寺行
「岡崎公園美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急電鉄・京阪電鉄・バスをご利用の方
阪急烏丸駅・京都河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 銀閣寺・岩倉行
「岡崎公園美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・京都河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 証園・平安神宮行
「岡崎公園美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 市バス他系統をご利用の方
「岡崎公園 ロータリアー京都・みやこめつせ前」下車徒歩約5分
- 「岡崎二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分
- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

*当館には駐車場がございません。岡崎公園駐車場(地下)をご利用ください。

*岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台につき1回)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。



お問い合わせ・会場

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

TEL. 075-761-4111

<https://www.momak.jp/films/>



▲新幹線大爆破 ©東映 ▽水の中のナイフ ©Tigon Films



PROGRAM

ポーランドの映画ポスター展
関連特集

ポーランドで愛された映画たち



MOMAK FILMS

PROGRAM

ポーランドの映画ポスター展
関連特集

ポーランドで
愛された映画たち

2020

06.27
06.28

PROGRAM

「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」展開催にあわせて、卓抜なポスターで紹介された、代表的なポーランド映画と日本映画を厳選して、国立映画アーカイブ所蔵フィルムから上映します。映画ポスターとともに、それぞれの映画作品の表現と造型、イメージをご堪能ください。



上映作品は予告なく変更する場合があります。
上映作品、各回のスケジュールについては
京都国立近代美術館HPにてご確認ください。
<https://www.momak.go.jp/films/>

料金 | 1プログラム 520円 (オンライン事前予約制のみ) <https://www.tiqets.com/>にアクセスの上、「MoMAK」で検索をお願いします。

*中学生以下は無料。
*心身に障がいのある方と添付者1名は無料(要証明)。
*当日に限り、本券でコレクション展もご覧いただけます。

-先着20席
-新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止のため、
MoMAK Filmsではお客様に安心して映画を鑑賞していただけるよう実施形態・入場券の販売方法を変更しました。
詳細は当館HPをご確認の上、ご理解とご協力をお願いいたします。
-会場内の飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK), 国立映画アーカイブ(NFAJ)



06/27(土) 14:00-15:34

水の中のナイフ

Nóż w wodzie(94分・35mm・白黒)

1962(ポーランド)

監・脚 ロマン・ポランスキ

脚 イエジー・スコリモフスキ、ヤクブ・ゴルデベルク

美 イエジー・リップマン 美 ポレスワフ・カムイコフスキ

音 クシニッシュト・コメダ

出 レオン・ニエムチク、ヨランタ・ウミツカ、

ジグムント・マラノヴィチ

ポランスキの名を世界中に知らしめた長篇第1作。湖上に浮かぶ自家用ヨットを舞台に、持ち主の中年男と若い妻、同乗したヒッチャイクの若者の、心理的な葛藤を硬質なモノクロ映像で描く。無国籍性と消費文化肯定が当時の共産党第一書記の逆鱗に触れたが、作品は国際的評価を受け、ポーランド映画の高い芸術性を世界に知らしめた。ヴェネチア国際映画祭国際批評家連盟賞受賞。



06/27(土) 16:00-18:33

鉄の男

Człowiek z żelaza(153分・35mm・白黒)

1981(ポーランド)

監 アンジェイ・ワイダ

脚 アレクサン德尔・シチボル=リルスキ

撮 エドヴァルト・クウォンシスキ

美 アラン・スタルスキ 音 アンジェイ・コジンスキ

出 イエジー・ラジヴィウオヴィチ、

クリスティナ・ヤンダ、マリヤン・オバニヤ

ポーランド民主化の原動力となった自主管理労働組合「連帯」の運動高揚期にワイダが放った、『大理石の男』(1977年)の後日譚。「連帯」が発足したグダニスク造船所を舞台に、体制側の記者が、ストライキのリーダーたちの生きざまと信念を明らかにしていく。クライマックスは、80年8月の「連帯」と共産党の政労合意調印式。カンヌ国際映画祭パルム・ドールを受賞。



06/28(日) 14:00-15:25

ゴジラ対ヘドラ

(85分・35mm・カラー)

1971(東宝)

監・脚 坂野義光 脚 馬淵薰

撮 真野田陽一 美 井上泰幸

音 真鍋理一郎 特殊技術 中野昭慶

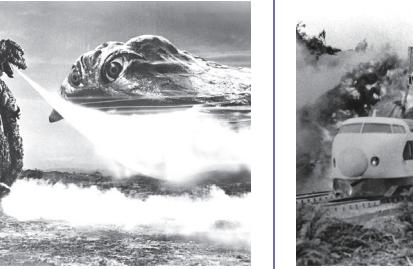
光学撮影 德政義行 合成 土井三郎

織田あきら、竜雷太、丹波哲郎、北大路欣也、

川地民夫、田中邦衛、志村喬、山内明、

永井智雄、鈴木瑞穂

当時社会問題となっていた公害問題をテーマに、汚染された海から生まれた怪獣ヘドラとゴジラの死闘を描く。ゴジラシリーズの第11作で、井上泰幸のデザインが秀逸なヘドラは、移動しながら硫酸ミストをまき散らし、吐き出すヘドロ弾や赤色光線で生き物を白骨化していく最強怪獣。ゴジラが放射能を吐いて空を飛ぶシーンも話題を呼んだ。



06/28(日) 16:00-18:32

新幹線大爆破

(152分・35mm・カラー)

1975(東映)

監・脚 佐藤純弥 原 加藤阿礼 脚 小野竜之助

撮 飯村雅彦 美 中村修一郎 音 青山八郎

出 高倉健、千葉真一、宇津井健、山本桂、郷锳治、

織田あきら、竜雷太、丹波哲郎、北大路欣也、

川地民夫、田中邦衛、志村喬、山内明、

永井智雄、鈴木瑞穂

ひかり109号に仕掛けられた爆弾をめぐる、犯人グループと捜査当局の息詰まる攻防を、卓抜なアイデアと緻密なシナリオで描いた和製パニック映画の傑作。世界各国で上映されヒットを記録した海外版は、100分版、115分版と、日本版の152分より大幅に短く、よりスピーディな展開となった。上映はオリジナルの日本版。

